

室生犀星全集

第一卷

新潮社

室生犀星全集 第一卷

昭和三十九年三月二十五日 發行
昭和五十一年八月三十日 セット版

著 者 室^{むろ}生^ふ犀^{さい}星^{せい}

發行者 佐藤 亮 一

印刷所 二光印刷株式會社

發行所 株式會社 新潮 社

〒一六二 東京都新宿區矢來町七一
電話 東京03(二六〇)五一(業務)
東京03(二六〇)五四(編集)
振替 東京 四一八〇八

(全十四冊セット) 定價 四九、〇〇〇圓

亂丁・落丁本は、御面倒ですが小社通信係宛御送付
下さい。送料小社負擔にてお取替へいたします。

室生犀星全集

第一卷

題
字

編
纂

西	奧	福	伊	窪	中	三
川	野	永	藤	川	野	好
	健	武	信	鶴	重	達
寧	男	彥	吉	郎	治	治

第一卷
目次

詩

〈抒情小曲集〉

序曲	一九
〔抒情詩の精神には……〕	一九
（扉 銘）	一九
（序）	一九
北原白秋	一九
抒情詩信條	二〇
（序）	二〇
萩原朔太郎	二〇
（扉 銘）	二〇
ルイ・ベルトラン	二〇
（序）	二一
田邊孝次	二一
（序 詩）	二一
〔自分は五月ころから……〕	二二

自 序	二二
『抒情小曲集』覺書	二三
小曲集箴言	二三

一 部（故郷にて）

小景異情	その一	二五
小景異情	その二	二六
小景異情	その三	二六
小景異情	その四	二六

小景異情	その五	二六
小景異情	その六	二七
旅途		二七
京都にて		二七
流離		二八
木の芽		二八
祇園		二八
夏の朝		二九
寺の庭		二九
旅上		二九
三月		二九
足羽川		三〇
ふるさと		三〇
犀川		三〇
みやこへ		三一
寂しき春		三一
利根の砂山		三一
氷の扉		三一
櫻と雲雀		三三

土筆		三三
前橋公園		三三
かもめ		三三
海濱獨唱		三四
蛇		三四
新曲		三四
砂山の雨		三四
魚とその哀歡		三五
赤檣		三五

二 部 (故郷にて)

時無草		三五
永日		三六
秋の日		三六
小曲		三七
小曲		三七
月草		三七
しら雲		三七

十一月初旬	三六
十一月初旬	三六
くらげ	三六
霜	三六
樹をのぼる蛇	三六
あらし来る前	三六
磧	三六
松林のなかに坐す	三六
砂丘の上	三六
静かなる空	三六
水すまし	三六
秋思	三六
しぐれ	三六
哀章	三六
わかれ	三六
雪くる前	三六
朱き葉	三六
山にゆきて	三六
すて石に書きたる詩	三六

秋の終り	四三
煙れる冬木	四四
大乘寺山にて	四四
三部 (東京にて)	
都に歸り來て	四五
はつなつ	四五
蟬 頃	四五
並木町	四六
銀製の乞食	四六
天の虫	四七
上野ステエション	四七
苗	四七
植物園にて	四八
郊外にて	四八
室生犀星氏	四八
ある日	四九
坂	五〇

坂	五〇
斷章	五一
道	五一
酒場	五二
街にて	五三
夏の國	五三
二つの瞳孔	五三
あさぞら	五三
郊外にて	五三

寂しき椅子	五四
十月のノオト	五四
合掌 その一	五四
合掌 その二	五五
合掌 その三	五五
合掌 その四	五五
合掌 その五	五六
合掌 その六	五六

〈抒情小曲集〉（補遺）

卓上噴水	五七
遠くよりのぶるもの	五七
銀行街	五七

裸形崇拜	五八
右	五八
雨中佇立	五九
兇賊 TICRIS 氏	五九
あさくさ	六一

〈青き魚を釣る人〉

夕日	三
とくさ	三
接吻	三

みどりを拜む	三
卓上噴水	三
再刊小言	三

序詩	六四
雪	六四
レミ・ドウ・グルモン	六四
（松下問童子……）	六四
（扉銘）	六五
海のあなたの	六五
テオドル・オオバネル	六五
扉銘	六五
青き魚を釣る人のこと	六五
佐藤春夫	六五
序	六五
萩原朔太郎	六五
小言	六六
（扉銘）	六六

青き魚を釣る人

（私はそのころ……）	六六
春の寺	六六
山の温泉	六六
春の入日に	六六
朱の小箱	六六
逢ひて來し夜は	六六
ところ	六七
断章	六七

山なみ	七〇
樺	七〇
冬の逢瀬	七一
小曲	七二
ふるさとより	七二
南天の朱き玉	七二
青き魚を釣る人	七二
ゆう餉	七三
赤き月	七三
五月	七三
氷菓	七三
愛猫	七三
榎の實	七四
路上にしろすうた	七四
ゆめ	七四
友に與へて	七五
僧院の窓邊	七五
ゆき	七五
洲崎の海	七五

ある秋の午後	七六
雪くる前	七六
青草に坐す	
（そのころ少年世界が……）	七六
栗賣	七七
暮日	七七
とんぼ釣り	七八
滞郷異信	七八
壁上哀歌	七八
哀しき都市	七八
青草に坐す	八〇
雨	八〇
消えゆく蟲	八一
秋	八一
秋晴のほとり	八二
黎明	八二
深空	八三

芒……………三

霜

（私はいろいろな顔を……）……………三
瑠璃色の黄昏……………四
美しき犬……………五
或る日の薄暮……………六
斷章……………七
夜の霜……………七
新曲……………八
燃焼……………八
水の上の戀……………九
眼閉つれば……………九
匿れた芽……………十
秋の幻影……………十
哀歌……………十
晩春……………十
斷章……………十一

愛魚詩篇

（私はそのころ……）……………九
愛魚詩篇……………九
寂しき魚界……………九
斷章……………十
凍えたる魚……………十
挽歌……………十一
椎……………十一
七つの魚……………十二

樅の木

（私たちは庭から磧——）……………十五
斷章……………十五
おんな子と坐りて……………十六
靜かなる卓上……………十六
ある日……………十六

へ鳥雀集

深更に佇ちて……………六
 泉のほとり……………七

抱擁……………六
 青き魚を釣る人の記(序に代へて)……………九

(扉 銘)……………二六
 序 詩……………二六
 引……………二六

別 れ……………二〇
 冬 草……………二二
 麥 頃……………二二

露霜に

鳥 雀

磧……………二九
 あさ霜……………二九
 青 冷……………二九
 旅のかなたに……………二九
 加茂川……………二〇
 身をよせる……………二〇

肖像……………二二
 輝ける街路……………二二
 鳥雀のいとなみ……………二二
 静かなる思ひ……………二二
 ドアにくる落葉……………二二
 水の上……………二二

ともしびを消せよ……………二三

音を怖る……………二四

蝙蝠……………二四

ひと朝……………二四

いそしみ……………二四

冬は來つ……………二五

君の名を……………二五

哀感……………二五

冬日に……………二五

わが名……………二六

猫を抱ける夫人……………二六

さみしき樹木……………二七

アンヘンと云へる

娘をうたへる

くちぶえ……………二七

心そむけるひと……………二七

その手に……………二七

白きを愛す……………二八

机……………二八

片町……………二八

知るや知らずや……………二八

氷柱……………二八

人とならむに……………二九

犀川磧……………二九

雪のなかより……………二九

犀川越えて……………二九

くらがり……………三〇

雪くらげ……………三〇

急行列車……………三〇

ひと日……………三一

唾……………三一

足……………三一

海べにてうたへる

馬車……………三三

海……………三三

海の尼寺	二三
冬に入る林	二三
七尾の海	三四
能登七尾の港	三四
海へ	三四

小出河原

氷の奥の春	三五
往復光路	三五
南天紅散亂	三六
鶏鳴	三六
蒼天	三六
赤城野	三七
白日	三七

明治四十三年

夏みどり	三七
扉銘	三七
都にのほりて	三八
日曜	三八
夜ぞら	三八
駿河臺の谷間	三八
さかづき	三九
犬	三九
根津の谷間	三九
サンドウキツチマンの上天	三〇
街にて	三〇
心	三〇

へ十九春詩集

さくらうぐひにそへて	一三	風	一三
むしうりのうた	一三	考へる虫	一四
愛の日	一三	胸の日の暮	一四
春の夜の	一三	煙草	一四
針	一三	女	一四
地震きたる	一三	夜のしづく	一五
天日	一三	わが心	一五

小説

幼年時代

..... 一九